

子供たちを世界農業遺産の中で育む

美里町の歴史を未来につなぐシンボル

「田圃の中学校」整備構想

■背景

少子高齢化社会が急速に進む中で、美里町を取り巻く環境も大きく変化しています。合計特殊出生率は、総合計画の目標を下回っており、今後更なる少子化が予想されます。高齢化率は約35%と非常に高い状況ですが、まだまだ現役で活躍できる高齢者が増加している状況もあります。

財政的には、税収及び交付税の減少等により、従来の住民サービスを再構築する必要があります。このような中で、美里町を未来に向けて持続させていくための政策が求められています。

■中学校の再編

子供たちを取り巻く環境は、大きく変化しており、この変化に合わせた教育環境の整備が必要です。教育委員会では、実情に即した教育環境を整備するため、現在3校ある中学校を1校に再編することとし、建設予定地の選定を進め、建設予定地を駅東地区に決定しました。

■特色ある教育の推進とまちづくり

今回建設予定地として選定した駅東地区は、世界農業遺産に認定された大崎耕土を形成する豊かな田圃の中であり、まさに美里町の特徴的な原風景の中で生徒を育てることができる環境です。また、交通の要衝として、将来においても美里町の中心となる小牛田駅からも近く利便性の良い環境です。

これらを踏まえ、まちづくりの視点を加え、美里町を元気にする取組が必要であり、さまざまな施策を連携させ、美里町を未来に引き継いでいくことが、現世代の責務であると考えます。

そこで、建設予定地の周辺環境等を最大限活用するため、新中学校を、農地を保有する「田圃の中学校」として整備することを考えています。美里町の基幹産業である農業を通し、美里町の「歴史・風土」、「食」を肌で感じ、学ぶことにより、美里町を誇りに思う気持ちを育てていくことにより、地域の実情に即した特色ある教育を推進することがねらいです。また、農地の管理運営を住民主体で行うことにより、住民の学校運営への関心・参加も促進され、多くの住民に開かれた学校として、よりよい教育環境を整えることにつながると考えます。さらには、新中学校の「田圃」を中心に、さまざまな取組を行うことにより、まちの元気につながっていくことも期待できると考えます。

■取組

取組内容については、今後の検討となりますが、次のような取組が考えられます。

- 1 住民を主体とした「田圃」を運営する組織を設立する。
- 2 生徒の学習の場として「田圃」を活用する（農業、自然、生態系等）。
- 3 給食に「田圃」で作った米、野菜等を提供する。
- 4 児童等との交流の場として「田圃」を活用する。
- 5 町内高校生徒との交流の場として「田圃」を活用する。
- 6 住民等との交流の場として「田圃」を活用する。
- 7 部活動に地域の文化、自然環境等を研究する部を創設し、住民等を顧問にして活動を行う。
- 8 「田圃」をフィールドにイベント等を開催する。
- 9 都市部の子どもとの交流、美里体験ツアー等を実施する。

■効果

- 1 住民が、学校に関わる機会が増え、町全体で生徒を育成するという機運が高まることが期待できる。
- 2 生徒が農業を肌で感じ、学ぶことにより、郷土を知り、郷土に誇りをもつ人間の育成につながる。
- 3 生徒が自分で栽培に関わった食物を食べることにより、食に関心を持つようになる。
- 4 児童が中学校に来て、生徒及び他校の児童と交流することにより、交友関係等が広がり、将来、中学校に進学する際、スムーズに移行できる。
- 5 町内の高校生徒、住民と交流することにより、自分の将来について考える機会になる。
- 6 農業を部活動にすることにより、美里町の特徴を生かした活動ができる。
- 7 各種イベントを開催することにより、交流人口の増加が期待できる。
- 8 関東圏等、都会の子どもと交流することにより、視野及び交友関係を広げることが期待できる。

■進め方

新中学校開校準備委員会（仮称）の中で検討を行うこととしています。